

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

上場会社名 ティーディーシーソフトウェアエンジニアリング株式会社  
 コード番号 4687 URL <http://www.tdc.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)谷上 俊二  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)岩田 伸  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月9日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

平成23年11月8日

上場取引所 東

TEL (03)3350-8111

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日~平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,194	0.9	224	48.7	238	53.2	120	31.4
23年3月期第2四半期	8,264	10.2	437	307.5	508	322.9	175	194.1

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期第2四半期	19	99	-	-
23年3月期第2四半期	29	09	-	-

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,542	67.2	5,737	67.2		
23年3月期	10,522	55.6	5,847	55.6		

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 5,737百万円 23年3月期 5,847百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	-	0 00	-	25 00	25 00
24年3月期(予想)	-	0 00	-	25 00	25 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	17,000	1.3	700	10.4	700	19.6	370	1.8	61	60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、【添付資料】4ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	6,278,400株	23年3月期	6,278,400株
24年3月期2Q	295,760株	23年3月期	240,680株
24年3月期2Q	6,029,864株	23年3月期2Q	6,037,822株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
3. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
4. 補足情報 .....	10
生産、受注及び販売の状況 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、持ち直しの動きが続いております。先行きについては、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待されますが、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、回復力の弱まっている海外景気が下振れた場合や為替レート・株価の変動等によっては、景気が下振れするリスクが存在しており、引き続き厳しい状況で推移しております。

情報サービス産業におきましても、景気の先行きに対する不透明感から企業のIT投資動向は依然として不透明な状況が続いており、厳しいビジネス環境が続いております。このような環境のもと当社は、お客様のIT投資動向に機敏に対応し、受注の確保・拡大、製造工程の価格競争力強化、新たな市場・事業の獲得を重点施策として取組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の業績は、金融分野は堅調に推移しているものの、法人分野が低調に推移したことにより、売上高は8,194百万円(前年同期比0.9%減)となりました。利益面では、厳しい受注環境の影響から稼働率が改善しないことや、一部開発案件において不採算案件が発生したことなどにより売上総利益が減少し、営業利益は224百万円(前年同期比48.7%減)、経常利益は238百万円(前年同期比53.2%減)、四半期純利益は120百万円(前年同期比31.4%減)となりました。

業種分野別の売上高は次のとおりであります。

金融分野は、保険関連向けの新規システム開発案件が低調に推移しておりますが、新制度の創設に伴う銀行関連向けのシステム開発が増加したことなどにより、前年同期比4.3%増収の5,374百万円となりました。

法人分野は、電気機器関連向けのシステム開発案件が堅調に推移しておりますが、震災の影響により新規のシステム開発案件が低調に推移していることに加え、前期に運輸関連向けや通信関連向けの大型システム開発が終了したことなどにより、前年同期比8.5%減収の2,138百万円となりました。

公共・公益分野は、官公庁・自治体関連向けのシステム開発案件は前年同期並みに推移しておりますが、エネルギー関連向けのシステム開発案件が減少したことなどにより、前年同期比11.9%減収の682百万円となりました。

## 【業種分野別売上高】

(単位：百万円)

業種分野 / 期	前第2四半期累計期間		当第2四半期累計期間		前年同期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
金融	5,153	62.3%	5,374	65.6%	+4.3%
法人	2,335	28.3%	2,138	26.1%	8.5%
公共・公益	775	9.4%	682	8.3%	11.9%
合計	8,264	100.0%	8,194	100.0%	0.9%

## (2) 財政状態に関する定性的情報

## 資産、負債、純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末より1,979百万円減少し、8,542百万円となりました。

流動資産は、有価証券、たな卸資産の増加などがありましたが、現金及び預金、売掛金の減少などがあり、前事業年度末と比べ1,949百万円減少し、7,198百万円となりました。固定資産は、繰延税金資産の増加がありましたが、投資有価証券が減少したことなどにより、前事業年度末と比べ30百万円減少し、1,343百万円となりました。

流動負債は、短期借入金、未払費用及び未払法人税等の減少などがあり、前事業年度末と比べ1,870百万円減少し、2,750百万円となりました。

純資産は、自己株式の増加やその他有価証券評価差額金の減少があり、前事業年度末と比べ109百万円減少し、5,737百万円となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、前事業年度末に比べ2,027百万円減少し、2,172百万円(前年同期は2,819百万円)となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金は、未払費用の減少142百万円、法人税の支払い235百万円などがあるものの、売上債権の減少565百万円などがあり、営業活動によるキャッシュ・フローは153百万円(前年同期は525百万円)となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金は、有価証券の純増加597百万円などがあり、投資活動によるキャッシュ・フローは、609百万円(前年同期は23百万円)となりました。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金は、運転資金の返済による短期借入金の純減少1,371百万円、配当金の支払150百万円などがあり、財務活動によるキャッシュ・フローは1,570百万円(前年同期は456百万円)となりました。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績が概ね計画通りに推移していることから、平成23年5月10日に公表した通期の業績予想に変更はありません。

\* 上記は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて法人税等を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,199,426	2,172,282
売掛金	3,684,515	3,118,532
有価証券	-	598,265
たな卸資産	620,579	654,137
繰延税金資産	545,631	545,631
その他	98,320	109,866
貸倒引当金	123	98
流動資産合計	9,148,349	7,198,617
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	68,933	61,917
無形固定資産	29,610	49,234
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	643,663	574,764
関係会社株式	37,280	37,280
繰延税金資産	16,726	43,760
差入保証金	563,432	563,432
その他	14,538	13,738
貸倒引当金	199	148
投資その他の資産合計	1,275,441	1,232,828
固定資産合計	1,373,985	1,343,979
資産合計	10,522,335	8,542,597
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	717,698	593,748
短期借入金	2,047,000	676,000
未払金	161,504	92,997
未払費用	1,243,188	1,100,915
未払法人税等	253,265	125,700
役員賞与引当金	38,000	18,500
受注損失引当金	37,101	29,723
その他	123,362	113,384
流動負債合計	4,621,120	2,750,968
<b>固定負債</b>		
長期末払金	30,100	30,100
資産除去債務	23,701	23,910
固定負債合計	53,801	54,010
負債合計	4,674,922	2,804,978

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	970,400	970,400
資本剰余金	831,739	831,739
利益剰余金	4,248,695	4,218,291
自己株式	204,275	248,332
株主資本合計	5,846,559	5,772,098
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	853	34,480
評価・換算差額等合計	853	34,480
純資産合計	5,847,412	5,737,618
負債純資産合計	10,522,335	8,542,597

( 2 ) 四半期損益計算書  
第 2 四半期累計期間

(単位：千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日)
売上高	8,264,541	8,194,181
売上原価	6,927,677	7,097,483
売上総利益	1,336,863	1,096,698
販売費及び一般管理費	898,975	871,856
営業利益	437,887	224,841
営業外収益		
受取利息	1,804	2,998
受取配当金	9,988	10,888
助成金収入	59,115	1,287
その他	5,266	3,615
営業外収益合計	76,174	18,789
営業外費用		
支払利息	5,430	5,279
その他	-	217
営業外費用合計	5,430	5,496
経常利益	508,632	238,134
特別利益		
貸倒引当金戻入額	78	-
特別利益合計	78	-
特別損失		
投資有価証券評価損	114,355	9,839
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15,029	-
特別損失合計	129,385	9,839
税引前四半期純利益	379,325	228,294
法人税等	203,697	107,754
四半期純利益	175,627	120,539

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	379,325	228,294
減価償却費	9,107	10,084
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9,300	19,500
受注損失引当金の増減額(は減少)	102,282	7,378
受取利息及び受取配当金	11,792	13,887
支払利息	5,430	5,279
投資有価証券評価損益(は益)	114,355	9,839
売上債権の増減額(は増加)	725,296	565,983
たな卸資産の増減額(は増加)	413,760	33,558
仕入債務の増減額(は減少)	22,806	123,950
未払金の増減額(は減少)	10,782	68,029
未払費用の増減額(は減少)	93,408	142,268
未払消費税等の増減額(は減少)	23,518	14,255
その他	22,708	8,111
小計	755,390	388,541
法人税等の支払額	229,933	235,296
営業活動によるキャッシュ・フロー	525,457	153,245
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の純増減額(は増加)	-	597,537
有形固定資産の取得による支出	1,880	477
無形固定資産の取得による支出	5,999	22,691
投資有価証券の取得による支出	1,629	4,523
従業員に対する貸付けによる支出	970	800
従業員に対する貸付金の回収による収入	2,649	1,890
利息及び配当金の受取額	11,809	12,880
差入保証金の回収による収入	19,220	-
その他	134	1,614
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,335	609,644
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	300,000	1,371,000
自己株式の取得による支出	57	44,057
利息の支払額	5,257	4,744
配当金の支払額	150,946	150,943
財務活動によるキャッシュ・フロー	456,261	1,570,744
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	92,530	2,027,144
現金及び現金同等物の期首残高	2,727,308	4,199,426
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,819,838	2,172,282

( 4 ) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

( 5 ) セグメント情報等

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

当社は、「システム開発」のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

( 6 ) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## 生産、受注及び販売の状況

当社は、開発から運用・管理までの一貫したシステム開発サービス及びシステム製品の販売等を一体とするシステム開発事業を営んでおり、当社におけるセグメントは、「システム開発」のみの単一セグメントであります。

なお、当社においては、開発システム等の納期が、得意先の期末（多くは3月）に集中する傾向が顕著であります。このため、売上高等は第4四半期会計期間に偏重する傾向があります。

## 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	7,097,483	+2.5
合計	7,097,483	+2.5

- (注) 1 金額は、製造原価によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	7,944,575	3.3	5,290,657	12.8
合計	7,944,575	3.3	5,290,657	12.8

- (注) 1 金額は、販売価格で記載しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	8,194,181	0.9
合計	8,194,181	0.9

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。